

第1194回教育委員会（定例会）会議録

公 開

1 日時場所

令和8年6月30日（火） 午後3時
県庁教育委員会室

2 出席者

太田教育長、小林委員、井口委員、三井田委員、松山委員、吉田委員
（事務局）鶴巻教育次長、角総務課長、中條財務課長、佐藤福利課長、
川村義務教育課長、今井高等学校教育課長、中田生徒指導課長、
庭野生涯学習推進課長、志田保健体育課長、石山教育センター所長、
総務課企画主幹、総務課長補佐、総務課総務係長、総務課総務係主事

3 開会

午後3時

4 議事日程の承認

第1194回教育委員会の議事日程及び議事順序を承認した。

5 その他

(1) 令和8年度北部ブロック道県教育委員協議会について

令和8年6月4日から5日まで新潟市で開催された、令和8年度北部ブロック道県教育委員協議会について、参加した委員から意見や感想等が報告された。

小林教育委員

無事に終了してほっとした。全体的な内容の話をすると、基調講演で金澤教育長から、「米百俵のまち長岡の教育行政の取組」というお話をいただいたが、その中で2つ真似してもいいなという点があった。

1つは「こめぷら」。いわゆる教育情報プラットフォームが非常に進んでいて、その内容をお伺いした中で、非常にいいなと思った。もちろん行政だけではなく、民間企業と一緒にやっているのもいいと思った。

もう1つは、母子手帳を教育委員会の子どもセンターという組織でやっているところ。いわゆる幼保小中で高が入れば、本当に生まれる前からずっと教育委員会で履歴を追うというのは失礼かもしれないが、面倒を見るという、そういう体制が一つの表れなのかなと思っており、非常にいいなと思った。

班別協議では、先ほども話題になったが、高校改革ということ

で、各県ネクストハイスクールについては政策があるようだが、今回 3,000 億の拠出については、本当に時間のない中で、各県が苦勞しているなという部分と、最初はモデルケースでやり、それを今度は他の学校にということ、それが非常に難しいのではないかと。それぞれの学校の中身というか、ランクも含めて違うので、その辺は懸念事項だということを各県言われていた。

情報交換会は皆さんの努力で、素晴らしいものになった。時間は短かったが、内容の濃い情報交換ができたと思う。

翌日の中央高校は、こちらは以前にも我々教育委員会の方で訪問していたが、改めて、学校のすばらしさを再確認させていただいた。もっと全国に知らしめて、全国から人が来るような仕組みは、必ずしやできると、そういう学校だなと認識した。

井口教育委員

全般的な話は、今小林委員のおっしゃった通り。

班別協議の中で、我々の班のネクストスクール関係の話で感じたことを少しお話できればと思う。

ネクストスクール構想で色々な類型がある中でどうするかという個別の話は出てはいたが、その全体の話として、やはり出てきたのは中心課題は学力向上という点のみならず、地域社会をどう維持するかみたいな話だった。人口減少、若者の流出、それから地域産業の担い手不足、小規模校の存続、そういったことが大きな課題になっていた。

特に北海道では、2040 年には就労人口で 46 万人の就業者不足。人口 500 万人の北海道で 46 万人ぐらいの就業者不足が生じること、青森県では毎年、町村が一つなくなるぐらいの勢いで人口が減っていること。そして、びっくりしたが、今年生まれた子どもの数は 4,800 人。一方で、私立高校の定員が全部で 2,000 人だそう。今から 15 年後の 2,800 人の公立高校の生徒をどうするか、それこそ公立高校をどうするかという話が、根本的な話としてすでに出てきているという話を聞き、大変なことだと改めて思った。

一方で、「公立高校の役割は何だろうか」という話題になったときに、農業、商業、工業、それから水産。こういったインフラに整備のかかる高校は、私立高校はなかなか手を出しづらいところがあって、公立高校の役割としてはそういった総合高校的な、少しお金のかかる部分をやるのが必要なのではないかと、そういう話題が出た。

北海道では、ほとんどが小規模校になってきて、実際 1 校の平均クラス数が 1 から 2 の間ぐらいとなっているという話も伺って、高校教育の質を維持することもちろん重要だが、それ以上に広い北海道の中で、高校をどう維持するかという点。新潟も似たようなところがあるので、ICT を使うとか、遠隔授業等を使いながら、ど

う維持するかを考えていく時代になってきている。

先週の金曜日に、国の財政諮問会議の骨太の方針 2026 という中で、これからは内需を増やすとかではなく、人口が減ることを前提とした体制づくりを、すべてのものをそういうふうにはマッチさせていくという話が出ていた。教育も、私の関係する医療もそうだが、とにかく人口がどんどん減って規模が小さくなっていくのを、どうインパクトを減らしながら受容していくかということに考えを進めていかなければいけないのかなと思った。

これは決して悪い話ではなく、よりよいものへとできると思うので、そういったことを考えさせられた今回の会議だった。

松山教育委員

私は北部ブロックの会議自体に出るのが非常に久しぶりで、でも見知った方もいらっしゃって、とても有意義なものだったと思う。

基調講演の長岡市教育長の金澤さんのお話が非常に興味深くて、改めて思ったのが、教育委員会においても市町村教育委員会の取組が全然わからない状況だということと、こういった良い取組をされているところが、もっと県民の方たちにも知っていただけたら、お互いに学び合うみたいなことができるのかなと思った。

市町村教育委員会同士の交流があって、もしかしたら承知されているのかもしれないが、私は初めて伺うお話だったので、そういった状況がないのであれば、市町村教育委員会、県教育委員会の交流みたいなものが、お忙しい中だとは思いますが、できたらいいのかなと思った。

翌日の見学も、中央高校には一度視察には伺っていたが、その後に違う機器が入っていたのか、初めて見る機器等もあって、興味深く、生徒さんの演奏もとてもよかった。緊張する場所だったと思うが、素晴らしい演奏だった。

みなとぴあも、私の娘が去年3年生の時に見学に行っていたところで、とても楽しんでいたのもどんな施設か楽しみだったが、新潟の歴史が色々と紹介されていて有意義な時間を過ごさせていただいた。ご準備いただきありがとうございます。ありがとうございました。

吉田教育委員

小林委員、井口委員がおっしゃられたような感想を等しく受けたが、その中で私学のあり方が地域によって違うと感じた。

青森では、遠隔地からも人を集めるために、送迎付きというような形でサービスを盛りこみ、学校運営をしていたり、それから山形だったと思うが、私立の募集が11月の半ばぐらいに行われるそうで、それに対応する形で、県立高校の試験を1月と2月に分けてやっており、獲得のために努力をされていると思った。

また、各地域に特色があるわけだが、少子化の中で、家から遠い学校に行かざるを得ない状況になったときに、どのように対応して

いるのかという点で、やっぱり遠隔授業やデジタル授業等、様々研究なさっていることが見て取れた。

翌日の中央高校は、改めてすばらしい取組をしている学校だなということと、歴史文化博物館は、2回ほど行ったことあるが、新潟の歴史をとらえていて、また説明される方が、真剣で一生懸命伝えてくださり、とても好感を持った。

三井田教育委員

皆さんの意見と全く同じような感じだが、最初の基調講演では、生まれる前から義務教育の終わりまで、子どもの育ちと学びを切れ目なく支援していて、そして設備も支援体制も整っているという長岡市教育長さんのお話。そのために母子手帳を教育委員会が交付しているという話は、長岡市に住んでいるが、知らないことばかりで、非常に勉強になった。

班別協議会では、各県が類型1～3の学校の説明の後に、今後の高校教育のあり方として、様々な意見、課題が挙げられた。全体的な人材不足に加え、特に理工系人材に女子の参入が不足していること。理系女子をどうやって増やしたら取組ができるのかというようなお話。

それから、この類型3つの中に総合学科、中高一貫校はどういう位置付けになるのか、県を大きなブロックに分けたときに、今後果たしてこの類型3つの高校が存在し続けることができるのか。類型を超えた横断的な学びのスタイルが必要になるだろうというようなお話があった。

北海道では、遠隔教育が随分進んでおり、実習系の授業でも十分可能だが、対面はやはり大切で、どのようにして対面を確保していくのかという課題があること。それから、そもそも魅力ある高校とはどんな高校なのか、そんな意見が活発に出た。

2日目の中央高校食物科、音楽科。素晴らしい設備を見せていただいた。その後のみなとびあの博物館では、水の都、港町として新潟がいかにして発展してきたのかが、県外の方にもよく伝わったのではないかと感じた。

今回主催県として、新潟に迎える側で初めての経験だったが、日本海の夕日を含めて、景色や文化等、新潟の魅力と特色を十分に伝えることができたのではないかなと思う。資料等、細かいところまで丁寧に準備をされた事務局の皆様のご尽力に心より感謝している。そのおかげで滞りなく2日間無事終えたこと、感謝申し上げる。

太田教育長

皆様のお話に少しコメントさせていただくと、長岡市の教育委員会が母子手帳を発行する、子育て支援をやっているということで、皆さん驚かれたのではないかなと思うが、今、県内の市町村でも、教育委員会が、通常であれば福祉保健部局にある子育て支援のような

ものを一体化している市は幾つかもう出ている。

都道府県レベルでも、秋田県がそういった組織になっていた。やはり幼児教育は非常に重要で、一体化ができないかということも少し検討しようかなと思っていた。

ただ、幼児教育や子育て支援とは少子化対策として、もっと大きな課題や施策が入ってくる。なので、秋田県は逆にこの春に、子育て支援のセクションを知事部局に戻したという話を聞いている。

本来であれば一体的でもいいなとは思いますが、少子化のように全庁的な話になると、うまくいかなかったと聞いている。

どこも人口減少は確かに進んで、これは当県もそうだが、人口が減ったシステムに合わせてという話があったと思うが、新潟県もまさにそうで、今 200 数万人の人口で、2100 年に 100 万人に人口を定常化させようと、総合計画でも言っている。100 万人の人口に合わせた社会システム、そして付加価値を向上させようとしている。今、県立高校も将来構想を作ってやっているが、まさにそういうことかなと思っている。

(2) 本県の学校教育の現状について

事務局から、**本県の学校教育の現状について**説明があった。

なお、次のとおり質疑、意見等があった。

小林教育委員

小中学校の現状では、ここ近年見ていると、5～6年連続してマイナスが続いている。

令和8年の結果はまだ出ていないということだが、このマイナスの結果をどう活かすかという施策的にはどうなのか。毎年、この上の文章が変わっているのか。こういう現状なのだから、こうしようというのがあるのか、ないのか。

川村義務教育課長

すべてをこの中に網羅できていない部分もある。

例えば今回で言えば、上位層の子どもたちの割合が他の自治体に比べ非常に低い。ということは、一人一人に応じた学習がなかなかできていないのでは、というところを受けて、授業そのもののあり方や、AIドリルのようなものを活用した形で、個に応じた、その子に合った課題が進められる取組のモデル授業のような形で始めたりとか。

或いは、家庭学習が1時間以上という子どもたちがどんどん減ってきているため、そのあたりについては、学校と家庭と連携しながら、具体的な授業と関連した課題を具体的に進めていくことが必要になる。その中でICTをうまく使いながら、今年度は取組んでいきたい。

太田教育長

ご指摘あるように、ここ何年も平均以下ということで、色々な取組をしているが、取組が足りないということだと思う。

例えば近県でも、秋田とか非常に学力が高いところはある。北陸でも。そういうところで何をやっているかを、まずしっかりと見て、新潟スタイルの学力向上の取組をやらないといけない。

小林教育委員

そういうのがないと、この学力検査の意味がないと思っている。私はどちらかというと学力検査は反対派だが、それをどう活かすかをやり込んでいかないといけない。

かなりお金と労力を費やしているプログラムだと思うので、本当に活かすのであれば、特にここ5～6年についてはマイナスで、このままではまずいよねという雰囲気があるのかどうかということだと思う。

(3) 深めよう 絆 にいがた県民会議について

事務局から、深めよう 絆 にいがた県民会議について説明があった。

以上で、公開分の日程を終了した。

第1194回教育委員会（定例会）会議結果

非公開

6 公開分に引き続き、非公開と決定した議事に入った。

7 審議議案

第5号議案 新潟県立図書館協議会委員の解嘱及び委嘱について

事務局から、新潟県立図書館協議会委員の解嘱及び委嘱について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

第6号議案 新潟県立図書館協議会委員の改選について

事務局から、新潟県立図書館協議会委員の改選について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

第7号議案 教職員の人事措置について

事務局から、教職員の人事措置について説明があり、審議の結果、原案どおり可決した。

8 その他

(2) 令和7年度体罰・暴言アンケート調査結果について

事務局から、令和7年度体罰・暴言アンケート調査結果について報告があった。

(3) 県立学校の生徒指導状況について

事務局から、県立学校の生徒指導状況について報告があった。

9 閉会

午後4時12分